



01



02



神野美伽さん (Vo.)、古市コータローさん (Gu.)、クハラカズユキさん (Dr.) のスペシャルユニットによるステージ

01 名曲の数々をギター1本で熱唱する田島貴男さん 02 色鮮やかな装飾が施された会場。オハラ☆ブレイクでは、キャンプを楽しむこともできる 03 劇団「ペテカン」による演劇「猪苗代湖の話 2017-ブとらとイトド-」。小説家の伊坂幸太郎さんが原作を書き下ろし、音楽を「The ピーズ」の大木温之さんが担当した 04 将来の夢や願い事を書いたたこを揚げる子どもたち



03



04

## 特集 オハラ☆ブレイク '18 夏

今年で4回目の開催となった「オハラ☆ブレイク '18 夏」。猪苗代湖畔・天神浜に音楽や演劇、美術、食などさまざまな文化が集結。会場にはゆったりとした時間が流れる中、来場者は多彩なプログラムを楽しみました。

音楽と文化の祭典「オハラ☆ブレイク '18 夏」が開幕

今年で4回目の開催となるカルチャーミックスフェスティバル「オハラ☆ブレイク '18 夏」は8月3日から5日までの3日間、猪苗代湖畔・天神浜で開かれました。

「オハラ☆ブレイク」は、音楽を中心に演劇、美術、映画、小説、食などさまざまなジャンルで活躍するアーティストによる文化を感じながら、猪苗代湖畔の壮大なロケーションの中でゆったりとした時間を過ごすことができる音楽と文化の祭典です。「大人の文化祭」をテーマに多彩なプログラムが繰り広げられました。

イベントタイトルは、オハラ川民謡会津磐梯山に登場する「小原庄助さん」ブレイクⅡ「休息」に由来し、何かと忙しい現代において、気ままに生きた小原庄助さんの休息のような平和な空間づくりを目指しています。

イベントには、3日間で過去最高となる延べ約5200人が来場しました。来場者は、地元産の食材を使用したさまざまな料理を楽しんだり、キャンプをしたりして、磐梯山を望む美しいロケーションの中で、それぞれゆったりとした時間を過ごしました。

### 音楽で来場者を魅了

音楽ステージには多方面で活躍するミュージシャンが多数出演しました。

初日、「ラブレイクステージ」と名付けられたメインステージには、演歌歌手の神野美伽さん、ギターリストの古市コータローさん、ドラマーのクハラカズユキさんの3人によるスペシャルユニットが登場し、イベントがスタート。3人は3年前のオハラ☆ブレイク出演をきっかけにユニットを結成。演歌や懐かしさの歌謡曲などを力強く演奏し、訪れた多くの観客を魅了しました。

続いてメインステージにはロックミュージシャンの奥田民生さんが登場。夕日で真っ赤に染まる猪苗代湖と磐梯山を背景に、奥田さんは「さすらい」など名曲の数々をギターの弾き語りで披露し、観客は大きな歓声を上げていました。

2日目以降も日本を代表するミュージシャンが出演しました。

4日には、加山雄三さん率いるバンド・THE KING ALL STAR や真心ブラザーズ、尾崎裕哉さんや浅井健一さんが出演。最終日の5日には、トータス松本さんや田島貴男さん、東京スカパラダイスオーケストラやフラワーカーパニーなど豪華な顔ぶれがそろい、会場は大いに盛り上がりました。



私が所属する猪苗代青年会議所では現在、インドとの交流事業を行っています。その一環として、いなわしろ天のつぶを来場した人においしく食べてもらうために猪苗代☆食堂でワルリカレーを提供しています。カレーの本場インドの調理法を基本にしなが、ルーに福島の桃を入れたり、夏野菜の素揚げをトッピングしたりして一工夫加えました。「お客様からは彩りも良く、ボリュームもたっぷりおいしい」との声をいただきました。

また、町内の養魚場で養殖している魚を使い、ヤマメのから揚げとイワナの塩焼きなどを新メニューに加えました。猪苗代で育ったおいしい川魚もぜひ食べていただきたいです。地元の青年たちが立ち上げた猪苗代研究所ですが、さまざまなつながりから活動の輪が広がっています。オハラ☆ブレイクだけでなく、さらにつながりを広げて活動の幅を広げること、町を盛り上げていきたいと思ひます。



猪苗代研究所副理事長  
くすのき きょうしん  
楠 恭信さん



冷えたトマトや桃が並ぶ。手前は会津伝統野菜の余蔘キュウリ



「極上キャンプサイト」で提供された猪苗代産会津牛の炭火焼き



猪苗代研究所メンバーによる「猪苗代☆食堂」。食を通じて町の魅力を発信している。新メニューの開発にも余念がない

## 多彩なプログラムを展開

「地域の魅力を伝えたい。だから私たちは、メンバーの所属などの垣根を越えた活動を始めたんです」とNPO法人猪苗代研究所の西村和貴理事長は話します。

4年前のオハラ☆ブレイク開催をきっかけに町内の青年団体が団結。青年会議所、町商工会青年部、JA会津よつば青年連盟猪苗代地区のメンバーらが中心となり、平成28年9月にNPO法人猪苗代研究所(いなラボ)を設立しました。オハラ☆ブレイクでは「猪苗代☆食堂」として地元産の農産物を活用したメニューを開発、提供してきたほか、町内のさまざまなイベントに積極的に参加しています。

今回、猪苗代☆食堂では、これまでも評判の高かったトルティヤなどに加え、新しいメニューの一つとしてインドカレーをアレンジした「ワウリカレー」を提供。カレーに地元産夏野菜の素揚げをトッピングし、ライスはそのブランド米であるいなわしろ天のつぶを使用するなど、食を通じて地域の魅力を発信しました。

来場者から好評を得ていました。

来場者の多くがキャンプを楽しんでいるオハラ☆ブレイク。そのキャンプサイトの中でも特に人気を集めているのが「極上キャンプサイト」です。今、世界的にも注目が集まるグランピング(※グラマラスとキャンプングを合わせた造語)。テントの設営や料理などの準備、さらには後片付けの必要がなく、気軽にアウトドアを楽しむことができます。

極上キャンプサイトでは、福島県内のさまざまな食材が使用されています。本町からは、猪苗代産会津牛のほか、トマト、アスパラガスなどの野菜を提供。調理を担当したCL ASSIC & SESSIONS INC.の松浦寛大さん(東京都)は「どれも素晴らしい食材で、とても好評でした」と話しました。

オハラ☆ブレイクの魅力の一つでもある野外美術展。今回は、美術展示を町内のはじまりの美術館がプロデュース。中川和寿さんや飯野哲心さん、浅見俊哉さんによる作品が森の中の空間を色鮮やかに飾りました。

今年も本町出身者がイベントに協力しています。写真家の野口勝広さんは「福島の花」シリーズの写真を展示。カリカチュアアーティストの渡辺孝行さんが似顔絵ブースを展開したほか、ヨガインストラクターのmeicoさんは「朝ヨガ」の指導者としてイベントに参加しました。

## Voice 来場者の声



家族で参加した吉田伸さん(右・郡山市)

オハラ☆ブレイクには以前から参加してみたいと思っていました。今回が初めての来場です。さまざまな展示や出展があり、想像していたよりもずっと楽しいです。家族で楽しめるイベントなので、また来年も参加したいです。



伊藤香奈さん(右・静岡県) 三浦桃さん(左・宮城県)

今年で3回目の参加です。素晴らしいロケーションの中で地元のおいしい食事やお酒を楽しむことができる。まるで民謡の小原庄助さんみたいです。家に帰りたくなるほど素敵なイベントです。



01



02

03

01\_ 演劇「深夜、誰の胸の中にも、高速が走っている」に出演するフラワーカンパニーズ、□字ツクのメンバーら  
02\_ オープニングであいさつする菅真良さん 03\_ 会場を彩る仙台在住の絵描き、中川和寿さんの作品。中川さんは、ラブレイクステージのステージ装飾も担当した

# 世界中に誇れるイベントを目指す

「次はメインステージ最後のプログラムとなる演劇ですが、その前にお話しさせていただけます。猪苗代湖畔で繰り広げられてきたこの芸術祭をいつか町全体に広げ、世界のどこにもないような、世界中に誇れるイベントにしたいです」。イベント最終日、メインステージである「ラブレイク・ステージ」の最後のプログラム前に、オハラ☆ブレイク実行委員長の菅真良さん(上新町出身)は真剣なまなざしでステージから話しました。

夕闇が迫るステージでは、演劇「深夜、誰の胸の中にも、高速が走っている」が演じられました。フラワーカンパニーズの名曲「深夜高速」をモチーフに、脚本・演出を劇団□字ツクの山田佳奈さんが手掛け、音楽をフラワーカンパニーズのメンバーがアコースティックで演奏しました。

演劇が終演すると、会場からは割れんばかりの大きな拍手が送られ、出演者はカーテンコールで答えました。

菅さんは終演後「オハラ☆ブレイクを通じて、地元の人たちとさまざまなジャンルのアーティストが協力し、世界中の人たちがうらやむような特別な場所を作りたいです」と話しました。

## Interview



▲自画像



▲川越シエフ

※作品画像は渡辺孝行氏提供

カリカチュア世界一アーティスト

### 渡辺 孝行さん

Takayuki Watanabe

Profile わたなべ・たかゆき

1981年生まれ。本町小平瀨出身。株式会社ドローイングスタジオ・マネジメント代表取締役社長兼代表アーティスト。東京デザイナー学院を卒業後、似顔絵技法の一つである「カリカチュア」と出会う。2012年、国際カリカチュアリスト連盟のカリカチュア世界大会・一般プロ部門で総合優勝。2014年には、同大会マスター部門を制する。各界の著名人を描いた似顔絵は、テレビやラジオ番組などでも紹介され、注目を集めている。現在は、読売巨人軍などプロ野球球団の公式グッズも手掛ける。



## 「似顔絵の原点はふるさと猪苗代」

似顔絵・カリカチュアの世界大会を二度制した渡辺孝行さんにオハラ☆ブレイクの会場で聞きました。

「カリカチュアを描き始めたきっかけを教えてください。」  
私がカリカチュアという言葉を知ったのは、東京にあるデザイン専門学校に通っていたときです。専門学校卒業後の進路を決めるため、学校に来ていた求人票を見ていたところ、ある会社の求人票の中に「カリカチュア」という言葉がありました。しかし、当時はカリカチュアのことは全く知りませんでした。一体どんな絵を描くんだろうと思う、カリカチュアについて徹底的に調べていたところ、ドイツの世界的な画家、セバスチャン・クルーガーの似顔絵に出会い、深い感銘を受けました。また、カリカチュアの世界大会があることを知り、私もカリカチュアに挑戦したいと決心し、この求人票の会社に入社しました。カリカチュアは2003年頃から本格的に描き始め、その後独立し、世界大会に挑戦しました。

「カリカチュアの魅力を教えてください。」  
誰が見ても「あ、この人の絵だ」と一目で分かるのがカリカチュアの魅力の一つです。描く人物の特徴を出すために、被写体となる人に対して遠慮をせず、思い切って描くように心がけています。



「オハラ☆ブレイクの感想を聞かせてください。」  
とにかく来場している人たちの評判がすごく良いですね。私のブースに立ち寄ってくれる人たちは皆口々に「また来たい」と話していますし、リピーターの人も多く感じています。音楽はもちろん、美術や映画など展示や体験プログラムが盛りだくさんの内容で、私も大変刺激を受けています。来場者に小さな子どもたちが多いのもこのイベントの特徴の一つではないでしょうか。

私はオハラ☆ブレイクのおかげで、こうして地元・猪苗代に戻って絵を描くことができていると思います。私の似顔絵の原点はふるさと猪苗代です。イベントが続く限り、出させていたきたいと思っています。私もオハラ☆ブレイクファンの一人なんです。